

保育北九州

平成24年7月1日
発行 北九州市保育所連盟
〒805-0019 北九州市八幡東区
中央2丁目1-1
(レインボープラザ5F)
電話 (093)661-2153番
発行人 平 沢 茂
編集人 日 野 真 人

2012168



〈写真提供 小倉南 支部〉

今年の夏

どんな虫 取れるかな？

表紙	1
視点・50周年に向かって	2～3
ようこそ保育所連盟へ	4～5
研修報告	5～7
雑感・編集後記	8

歴史に学ぶ

視点

司馬遼太郎が子どものために書いた作品は二編しかないそうだが、その一つ「二十一世紀に生きる君たちへ」は、子どもたちへの優しいまなざしと温かさに溢れるメッセージである。「人は何のために生きるのか」と問いかけながら未来に夢と希望を与えるすばらしい作品だ。その文中に「歴史とは大きな世界です。かつて存在した何億という人生が詰め込まれている世界です」

「私はこの世に沢山のすばらしい友人がいるが、歴史の中には、此の世で求め難い程すばらしい人たちがいて、私の日常を励ましたり慰めたりしてくれている」

その文章に誘われて、現在、子ども子育て新システムを策定しようとしている人生の持ち時間の少なくなった人たちが、子どもたちのために何をしようとしているのか、改めて考えてみた。

「未来の財政基盤確立のために」と稱しているが、「人間の生き方」という如何なる時代にも不変のものに対しての視点や現在を生きる子どもたちへの優しさや温かさは微塵も感じられない。これまででも再三述べてきたが就学前教育は学校教育法二十二条にも「幼稚園は幼児を保育し」と示され、大人からの世話と子ども自身の中にあるものの育成との調和が「保育」という語に

北九州市保育所(園)連盟

五十周年に向かつて

会長 平 沢 茂



一九六三年(昭和三十八年)二月、それまでの五市を対等合併し、五区制をもって誕生した北九州市において、同年四月、「組織は力なり」を合言葉に、「児童福祉の向上は、保育関係者の組織化が必要である」との信念に基づいて、故西村法昭先生(初代会長)をはじめ保育に携わる多くの先達の先生方のご努力により誕生した現在の「北九州市保育所(園)連盟」はまもなく満五十周年の時を迎えようとしています。

発足当初は「北九州市保育所連盟協議会」と名うたれ、同年八月に創刊された「北九保連だより」に記された初代会長のお言葉に、「新市にふさわしい保育事業の一大飛躍を期して各区代表者により真剣に然も極めて明るくなごやかな雰囲気のもとに会は運営されて居る次第であります。旧五市に於ては他の一般行政と異なることなく保育行政に於ても、それぞれ独自善の施策が講ぜられて居た様であります。従って運営管理の指導においても又は助成面にいたしましたも或は職員の勤務形態に關しても各市バラバラで何等連絡調整は行われて居なかつたことは已にご承知の通りであります。われわれの念願するところは一日も早く各区のこうしたデコボコを一体化して貰いたいと云うことであります。そのためには旧五市観念の払拭なり旧殻の脱皮を急がねばなりません。保連

協議会に於ては之が強力なる推進力となるべく誓いを新たにして居ります。然し我々の行手にはタッチゾーンと云う大きな副産物の障害が横たわって居る実情をかんがみ、その中で問題の一つ一つを取り上げ、解きほぐしてゆくことの至難さを充分承知しておかねばならない。」(原文のまま)とあり、発足時のご苦労の中にも一九六八年(昭和四十三年)五月には、「北九州市保育所連盟」と改め、先の協議会に引き続き初代会長として西村法昭先生のお働きをいただいて、「保育は北九州市からの理念と「北九州市と車の両輪」としての協力体制をもって北九州市における保育事業の強化と発展がおすすめられてまいりました。

一九七〇年(昭和四十五年)十月には「北九州市保母会準備委員会」が結成され、一九七四年(昭和四十九年)四月にはそれまでの五区制から七区制に改まり、本連盟も五支部から七支部となり、加えて十月には「北九州市保母会(現保育士会)」が発足し、初代会長として藤岡佐規子先生が就任されました。さらに、一九八五年(昭和六〇年)四月には、「社団法人北九州市私立保育園連盟」

示されているのに、過日のフジTVの討論では、小宮山大臣は「すべての子どもに学校教育を」としきりに強調された。義務教育ではないのである。

一体化を謳いながら幼稚園に押し切られ、三歳未満児の受入れは義務づけず、厚労・文科・内閣府と、より複雑化され、しかも待機児解消は期待できないという。保育の質の充実など、言葉はどう飾ろうとも経済効率のみ、児童福祉の視点など全く見られない。

歴史に学びたいと手元にある児童福祉法制定の頃の「育てつつ」という福岡県保育連盟のガリ版刷の機関紙を開いてみた。

諸外国の保育事業が、フレーベルのキンダーガーデンの理想通りに発展したの比べ、我国のみは純教育事業として特殊な発達を遂げ、恰も特権階級の如き観を呈するに至った。

此処に庶民の要求として誕生したのが保育所である。とし、幼稚園が高踏の立場にのみ立ち社会要求を無視してよいか、保育所が単に幼児を受託し教育面が忘れられてよいかと問うている。これは現在も続く保育関係者の課題でもあり願ひでもあるが、養護と教育を一体化した営みが「保育」なのである。

子どもの現在に寄り添いながら、子どもの中にある育つ力を育たせようという営み、その視点での法改正、そのための専門性、条件整備を強く主張しなければならぬ。

藤岡 佐規子

が発足、初代会長には故西村法昭先生が就任され、北九州市における保育の働きは、お二人の先生方をはじめとして、歴代の会長、役員としてお働きくださった多くの先生方のお働きによって、全国に冠たるものとしてのこれまでの五十年の歴史が刻まれてきました。

これらの歴史の上に立って五十年、折りしもわが国は一九八三年(昭和五十八年)の頃に論議された「幼保一体化問題」が再燃するかのようになり、「子ども・子育て新システム」の法制化が国会に上程され、この六月十七日(日)に「三党修正合意の内容」として朝刊の紙上に掲載されています。したが、なお行く先は不明であり不安定であります。しかし、歴史は動き進んでいます。わたしたちに委ねられている「民族の根っこを育てる」こと、「高い専門性と倫理性を持つた専門集団として、子どもたちの最善の利益と権利を守るため」(藤岡佐規子先生のことば)に保育の業もまた止まることは許されません。

「子どもは未来の宝、子どもの幸せのために、子どもの視点に立って」の合言葉をしっかりと再確認し、さらなる北九州市の保育史のページを

会員皆様方の知恵と力を合わせて綴り続けてまいりましょう。

本連盟は五十周年を迎えるにあたり、常任理事会及び理事会のご承認をいただいで企画部・編集部を構成させていただき、それぞれの協議の上、以下の事業を行わせていただくこととなりました。

(1)「保育まつり」開催

(北九州メディアアドームにて)

六月三十日(土)

(2)第五十回保育研修大会を

「五十周年記念研修大会」として開催

として開催

(ホテルアルモニーサンク及び

北九州ソレイユホールにて)

十一月二日(金)、三日(土)

(3)五十周年記念式典及び

記念祝賀会開催

(リーガロイヤルホテル小倉にて)

二〇一三年(平成二十五年)

一月十八日(金)

さらに、これまで長年、藤岡佐規子先生が、政治・社会・人・保育に携わる者などを見つめ、時には優し

く時には厳しく「保育北九州」の紙面に綴り続けて下さった「視点」を編纂し発刊させていただきます。これは、先生のご苦勞に対し深い尊敬と感謝の念を表させていただきます、今もそしてこれからも保育に携わる人々の成長の糧とさせていただきますことを願って編纂させていただきます。

また本連盟の歴史を振り返り、先達者の皆様のご苦勞と喜びを広く知っていただき、加えて保育に携わる者の前進の糧とするために「北九州市保育五十周年記念誌」を発刊させていただきます。

これらの事業を実施するためには、北九州市のお力添えと北九州市私立保育園連盟のお支えをいただかなければなりません。合わせて、本連盟に連なる皆様方のご協力をぜひお願い申し上げます。記念すべき時を迎えるあたりご挨拶とさせていただきます。

(本稿のため「北九州市保育所連盟三十周年記念誌」、「北九州市保育士会三十周年記念誌」などを参考とさせていただきます。)

インタビュー！ 保育所連盟

この4月から北九州市保育所連盟事務局長となった清田千年きよた ちとせさんに保育北九州編集委員一同がインタビューしました。



聞き手・保育北九州編集委員

(以下、編集A～G)

語り手・清田千年事務局長

(以下、清田)

(編集A) 事務局長に就任されたばかりでお忙しい中、インタビューにご協力くださいましてありがとうございます。

ございます。どうぞよろしくお願います。

(清 田) こちらこそよろしくお願います。

(編集B) 清田局長はこの3月まで北九州市の子ども家庭部長をなさっておられました。市役所時代のことなどをお聞かせください。

(清 田) 市役所には八幡高校を卒業してすぐ入庁しました。まだ十代の若者でしたので、市役所とはなると大きな組織なのだろうか。と圧倒される思いでした。

また多くの部局があるところでしたのでやりがいのある職場だとも感じました。きっと自分の力を発揮できる部署があるだろうと。(編集C) 初めての配属先はどちらだったのですか？

(清 田) 市立小倉病院の医療事務部門に配属されました。ここではソロ

バンを叩き込まれました。それまでソロバンを触ることもあまりなかったので、みなさんに遅れを取るまいと必死で練習しましたね。

(編集D) 若き清田局長が必死にソロバンを使っている姿が目につかぶようです。

(清 田) わたしは子どもの頃から口べたで、おとなしくてシャイでした。ですが、努力することだけは誰にも負けまいと思ってきました。

だからソロバンの練習なども性に合っていたかも知れません。

(編集E) 福祉関係の職場に配属されたのはいつぐらいですか？

(清 田) 30歳くらいの頃に小倉北区でケースワーカーになったのが初めてです。

そしてその頃、生涯の伴侶を得ることになりました。

(編集F) 困難を抱えて生きて行かれる方々に手をさしのべる、大事な職務と承知しております。

(清 田) そこに5年程おりました。衛生局総務課に配属されました。その頃に係長試験に合格しました。

(編集G) なかなか保育課が出てきませんか(笑)

(清 田) 保育課には平成8年に保育係長(公立担当)としていったのが最初です。

その時が3年間、そして平成16年から3年間保育課長をしております。平成20年から2年間は子育て支援健全育成担当部長、平成22年から2年間は子ども家庭部長(いずれも保育担当部長)をさせていただきました。

(編集A) 10年間に及ぶ保育関係部署への配属ですね。

(清 田) 42年間の市役所勤めの自分の一弱が保育課でした。得難い御縁を頂いたと思っております。

(編集B) 話変わって、清田部長の趣味はなんですか？

(清 田) 趣味はスポーツ全般です。今はゴルフにはまっています。

ただ、まだ今の職場に慣れていないので、コースに出る余裕はまったくありませんが(笑)

(編集C) わたしは今公立保育所の所長をしていますが、以前は本庁保育課に配属されていたことがありました。その時のエピソードを披露してもよろしいですか？

(清 田) なんだか怖いなあ(笑)

(編集C) わたしが交渉事で困っており、しかも他の上司の方々と、その交渉の場に同席してもらおう日時調整がつかなかったことがあります。

一人で交渉の場に臨まねばならないのか、と困惑しながらも覚悟を決めようとした時、清田さんが「わたしで良ければ同席しましょう」と助け船を出してくださいました。

わたしがどうするのか、とじっと見守りながらも、タイミング良く救いの手を差し伸べてくださった清田さん。本当に嬉しかったですね。

(清田) 恥ずかしいのであまり褒めないでください(笑)

(編集D) 他にもエピソードがありませんか？

(編集C) 清田さんは部下にとっても優しい上司でした。いつもニコニコされており、大声を出したところを見たことがあります。

(編集E) 保連にしても事務局にしても女性の多いところですから、優しい事務局長が来て下さってみんな喜んでいと思います。

(編集F) 先日、うちの支部の歓送迎会に清田局長も参加して下さいました。

その席で歌ったカラオケの福山雅治、上手でしたね。

(編集G) 少し脱線気味ですので本題に戻しましょう。

清田さんは、これから事務局長としてわれわれと共に歩んでくださるわけですが、北九州市保育所連盟事務局長としての抱負などがありましたら教えてください。

(清田) やはりわたしには行政とのパイプ役が期待されていると思います。

今までは行政側の立場でみなさんと接してきました。もちろん行政と現場は北九州保育の両輪ですから、一緒に手を携えてきたという自負もあります。しかしこれからは、同じ保連の仲間としてみなさんと共に歩んでいきたいと願っております。

そしてまた、わたしのことを保育課OBの清田千年ではなく、保育の仲間と思っただきたいとも。

(編集A) 子どもたちと共に歩む保育者仲間ということですね。

(清田) そうです。子どもたちへの視点を大事にしていきたいですね。

(編集B) 「視点はいつもこどもたち」ですね。

(清田) 以前、藤岡佐規子先生か

らお聞かせいただいた、「不易と流転」という言葉が思い返されます。

われわれは保育の道を進んでいく中で、変えていかねばならぬ事と、決して変えてはならぬ事、それぞれを常に模索し続けるべきでしょう。

(編集C) 清田局長の仰る通りだと思います。どうぞこれからよろしくお願いたします。

(編集D) そしてお忙しい中、インタビューにご協力いただきましてありがとうございます。

(清田) こちらこそ楽しいひとときでした。

これからもみなさんと一緒に、より良い保育を目指して頑張っていきます。

平成24年4月25日

レインボープラザ5F保連会議室
以上文責「保育北九州」

編集長 日野 真人

北九州市保育所連盟
北九州市保育士会へご寄付

八幡西区(社福) 天心報恩会 理事長 吉井桂子様よりご母堂様のご逝去に伴い、保育事業発展のため多額のご芳志を頂戴いたしましたのでご報告申し上げますと共に心からご冥福をお祈り申し上げます。

研修報告①

電話相談事例研修

五月二十五日、電話相談事例研修に参加させて頂きました。午前中は、井上孝子先生より電話相談の「基本と現状」から学び、びあちえれの概要など、詳しく説明を受けました。最近では、各保育園や他機関でも相談活動が行われていることもあり、電話相談の件数が減ってきている現状ですが、二十四時間対応のEメール相談は、逆に増えているとのこと。相談の方法は違っても、悩んでいる方は多く、必要とされる事業であると強く感じました。電話相談を受ける際の基本としては、受容・共感をし、信頼関係を築いた上で自己決定できるように援助していくことが大切である。また、相談記録に時間や主訴等の未記入のことが多いことから、記録の取り方として、誰が見ても分かるように、必要な事項を記入し、内容のやり取りを詳しく記録することが重要であると指導を受け、声だけが頼りの電話相談の中で、良い関係を作っていく難しさ、記録に残す責務を再認識することができました。午後からは、南里ソエ子先生より、相談事業の歩みと体験してこられた事例や「ゆさぶられっこ症候群」の怖さについてお話を聞きました。又、グループ討議では、二つの事例を基に検討し、「依頼者に対する共感が少ない。」など活発な意見が交わされ、実践に結びつく学びができ、貴重な時間となりました。これからも、相談者の気持ちや少しでも軽くなるよう相手の気持ちに寄り添いながら電話相談に臨みたいと思います。今回研修に参加できたことに感謝致します。

藤松保育園

海老 幸子

研修報告②

第55回全国私立保育園研究大会

「あしたへつなごうこどものえがお。」語りあおうこどもの未来をテーマとして平成二十四年六月十三から十五日まで三重県の四日市市で全国私立保育園研究大会に参加しました。

一日目の特別講演では、高校レストランで知られる「村林新吾先生のお話がありました。いくつになっても、怒ってはばかりでは子どもは育ちません。基礎を作ることが大事で、この基礎を作るには子供の気持ちに寄り添い誉めることが大切である。育てるに当たり私たち大人は常識を外れた事は絶対にはいけないことをいわれていました。

二日目の分科会では、心と身体の育ち（子ども・家庭と一緒に取り組む「生活リズム」）に参加し、近年の子どもは、生活リズムが乱れ、



寝る時間が遅く朝食を食べず登園してくる子どもが多くなっています。三園の取り組みを聞いた後、グループ討議をしました。実態調査をした上で対応し保育士はもちろ

ん、保護者の協力なしでは改善できないこと。それはまず、親との信頼関係を築いた上で対応していき、子どもが健やかに育つように今後も取り組み、改善していくべき点を見出すことができました。

三日目の記念講演では、尾木ママこと尾木直樹先生のお話がありました。乳幼児期の関わりが一番大事で、基本的信頼を作ることも大切です。また、原体験が豊かにあればあるほど後々につながる。また子どもを褒め、心の変化を引き出し共感する子育て、保育することで、子どもは生き生きと生活出来ることを力強く言われていました。

研修を通して、子どもにとっていかに環境が大切で、それを取り巻く私たち保育士や保護者の関わりも重要になること。褒め子どもの心にも気付き、今後も一人ひとり丁寧に関わり、語りかけていきたいと思えました。

西山保育園
窪園 欣子

リーダー研修会に参加して

梅雨に入り紫陽花の花が色づき始めた六月十八日、北九州を代表する観光地にある門司港ホテルでリーダー研修会が行われました。

北九州市保育士会名誉会長である、藤岡佐規子先生の「北九州の保育半世紀の歩み」という演目での講演がありました。

藤岡先生は、常に子どもの育ちに視点を置き、乳幼児期の保育の大切や、子どもの育ちの「根っこ」を育てるのは私たち保育士であるということとを訴え、保育士の社会的地位向上の必要性も半世紀前から発信してきてくださいました。こ



のことは北九州市保育士会が誇るべきことであり、私自身、保育士会に属していることの重みと、この組織力を守り続けていくことの大切さを感じました。

続いて、北九州市保健福祉局健康推進課栄養改善担当係長である大村美智子先生による「東日本大震災被災地の活動を通して」の講演がありました。

被災地での活動の中「食べること」の楽しさを伝え、栄養士の常式は通用しないことを認識した上での対応は、職種は違っても専門職として相手の立場に立ったコミュニケーションが必要であることを改めて学びました。

また、グループ討議では、災害時における子どもの命を守るためのあらゆる想定・判断について真剣に意見がかわされました。今回の研修で学んだことを、「自分の身にすゝる、力にする」という気持ちで、一日一日を大切に積み重ねていくことのできるリーダーになることを心がけたいと思います。

重岡 真美子

エピソード記述に関する研修会

六月二十一日（木）「エピソード記述に関する研修会」に参加させて頂きました。午前中は、講師の中京大学心理学部教授、鯨岡峻先生のお

話がありました。エピソード記述とは「今日こんな事があった。」という単なる記録ではなく、自分の心が動いた印象的な出来事を、読み手を想定し読み手に自分の体験が分かってもらえるように、その出来事・エピソード・考察を記述した物の事を指します。

私達は、保育において保育者主導の保育になりがちです。そこで、エピソード記述をする事によって、自分の保育を客観的に見る事が出来、目に見えない子どもの心にしつかりと目を向け、保育者主導となっていた自分の保育を見直すきっかけになるという事を学びました。



午後は、他県の研修会で出された実際のエピソード記述の事例を読んでいく中で、エピソード記述を読む側（第三者）の目で冷静に見る事が出来、どのように書けば相手に伝わり易いのか考える事が出来ました。

又、事前の宿題として作成してきた自分のエピソード記述に何が必要で、何が足りないかを知る事が出来ました。

今回学んだ事を生かし、次回の研修に向けもう一度エピソード記述を書いてみようと思います。そして、エピソード記述を通して、子ども達の心に寄り沿った保育を目指していきたいと強く思いました。

足原だきしめ保育園

坂井 友里

各支部名物

八幡東支部

「自然散策お勧め

スポット！」

緑あふれる山、四季折々の花が咲いている公園等、八幡東区は自然にびっぴりで休日のお出かけや遠足にぴったりのお勧めスポット満載です。今回はそのうち二か所を紹介したいと思います。

一か所目は皆様ご存じの『皿倉山（六三メートル）』です。北九州国定公園に指定されている帆柱自然公園の一角をなしており、最近では東京スカイツリーより十二メートル低い山として評判になっています。東区の保育園では「毎年の遠足は皿倉登山」と決めている所もあるくらい園児にも登りやすい山です。親子遠足で利用する園も多く、親子でゆっくりと登り豊かな自然に親しんでいるようです。遊歩道のほかに帆柱ケールやスロープカーも整備され、

特に平成十九年にリニューアルされたスロープカーからの景色は素晴らしいものです。山頂の展望台まで行くのにもエレベーターがあり、高齢者や車いすをご利用の方・妊婦さんも安心して登れます。山頂には食堂や大きな大きな皇后杉の根株も展示されています。展望台からは北九州の風景が三六〇度の大パノラマで見られとても感動的です。ほかに花尾山にかけての一〇〇年の森、北原



白秋や野口雨情の碑、多種多様の昆虫や野鳥等、枚挙にいとまがない程です。

二か所目は『河内藤園』です。河内貯水池の山間にあり、昭和五十二年四月に開園した日本有数の広さを誇る私営の藤園です。（入園料は三〇〇円～一〇〇〇円・開花状況により変動）一〇〇〇坪の大藤棚を中心に藤ドームや藤トンネルをあしらい四月下旬から五月中旬にかけて様々な藤の花が順繰りに咲きます。花の種類は野田藤・口紅藤・赤紫・青紫・紅・白・八重・長・中・短などの二十二種類一五〇本で知る人ぞ知る藤園です。花の盛りには甘い香りがあふれていて遠足でやってきた子ども達も「すごくいい匂いがある」と大喜びです。

ご主人は花観光客が大勢集まると藤の木を痛める人もいるから…と宣伝は一切していないそうですが、今年には観光バスが何台も来ていて評判が口コミで広がっている事に驚きました。なんでも年間二万人も訪れるとか…。ちなみに、秋は紅葉の名所でもあり十一月下旬より入園料三〇〇円で紅葉の森が散策できま



す。近くには河内温泉『あじさいの湯』もあり、藤や紅葉を見てその後にはゆったりと温泉につかってリフレッシュができ最高です。山あり花あり温泉ありと自然にっばいの八幡東区に皆さん是非お越し下さい。



雑感

『初心者マークを付けた所長の決心』

六月を過ぎ、ホッと大きく一息つき、ようやく周りの状況を見渡す余裕が出てきたこの頃です。初めての所長職で、今年の四月ほど、忙しいと感じた年はありませんでした。「笑顔が大切」と日頃から職員に言っている私自身がどんな表情をして、毎日を過ごしていたのか、改めて反省しました。

縁あって、今年の四月に、前任地の黒崎保育所に所長として戻ってきました。一年間しか空いていないこともあって、保護者の方からの反応は「あれ?」「なぜ?」というものでしたが、同時に「おかえりなさい」という言葉や、「先生、仕事慣れた?大丈夫?」「バテないでね」と心配してくださる声もあり、ありがたいことでした。子どもたちの反応は、大人以上に面白いものでした。

「あれ? 柏木先生、なんで保育所におると?」「所長先生はおらんの?」

私が所長先生になったことを説明しても「ふくん。なんで?」と理解し難い様子です。一年前、未満児クラスの担任だった私を「所長先生」と呼ぶのは合点がいかず、戸惑っているのでしょう。私は、子どもたちのやりとりを、しばし楽しむ事にしました。

ところが、私の決心をいとも簡単に崩すやり取りが起きました。

五月の宿泊保育に出発する日の事です。年長児のMちゃんが「あれ?なんで柏木先生も一緒に行くの?」と怪訝そうな顔です。思わず「私は、所長先生として行きます。わかりましたか」と大きな声を出してしまいました。Mちゃんは、キョトンとしながらも「うん」と返事をしました。私たちのやり取りを聞いていた職員は大笑い。言ってしまった後「あーあ、大人げない。子どもたちとやりとりを楽しもうと思っていただけなのに」と、反省しきりの私でした。

今日も、事務室前を通る笑顔のMちゃんから「柏木先生、おはよう」と元気な声が聞こえてきました。きつとMちゃんは卒園するまで「柏木先生」なのだろうと思い、一人で笑ってしまいました。

子どもたちの真正直な笑顔は、私達人に元気をくれます。保育士の道を選んで良かったと思える瞬間でもあります。初心者マークを付けた所長ですが、この子どもたちの笑顔を守るために、精一杯努力をしていこうと、決心を新たにしました。

黒崎保育所

柏木 幸子

編集後記 — 叡智とは？

数学者である藤原正彦氏が週刊誌上において、十八世紀イギリスの思想家パークと福澤諭吉の言葉を引用しておられた。ここにあらためてそれぞれを引用する。パークは「制度、慣習、道徳、家族、などには祖先の叡智が巨大な山のごとく堆積している。人間の知力は遠くそれに及ばない。理性への過信は危うい」と説かれ、福澤諭吉は「数千百年の久しき、各々その国土に行われたる習慣は、たとい利害の明らかなるものといえども、とみにこれを彼にとりてこれを移すべからず。いわんやその利害の未だつまびらかならざるものにおいてをや。これを採用せんとするには千思万慮歳月を積み、漸くその性質を明らかにして取捨を判断せざるべからず」この稿が発行される頃には、新保育制度についても何らかの進展もしくは行方がつまびらかになっていよう。しかしそうであっても、三百年も前から警鐘を鳴らしていた先人の言葉に今一度耳を傾けたい。

「保育北九州」編集長 日野 真人